

事後評価書

箇所名	一般国道422号		事業名	道路事業	課名	道路建設課
事業概要	工期 (下段前回)*	H7年度～H28年度	全体事業費 (下段前回)*	1,886百万円 (負担率: 国: 5.5 県: 4.5)		
		H7年度～H28年度		2,010百万円 (負担率: 国: 5.5 県: 4.5)		

事業目的及び内容

■当該路線の状況
 一般国道422号は、滋賀県大津市を起点とし、三重県内を南北に縦断し北牟婁郡紀北町に至る延長125kmの道路です。
 当該路線は、大台町大杉地区から宮川の左岸沿いを通り、県道大台宮川線を経由し、国道42号へアクセスする幹線道路です。沿線には、大台町役場宮川総合支所、宮川小・中学校、診療所、警察・消防やスーパーなどの生活関連施設があり、大杉地区の住民にとっては、生活に欠かせない重要な道路ですが、当該事業箇所は、幅員が狭小で線形が悪い箇所が多く、安全で円滑な車両の通行に支障をきたしていました。
 しかし、大台町滝谷地内の旧の八知山トンネルは、平成8年に北海道で発生した豊浜トンネル岩盤崩落事故を受けて点検を行った結果、坑口部で崩落の危険性があることから、平成10年2月から通行止めとなっており、事業区間が開通する平成29年2月まで、利用者は対岸の町道への迂回を余儀なくされていました。なお、この町道は、道幅が狭いため円滑な交互通行ができない状況でした。
 また、当該事業箇所周辺は、平成16年9月に来襲した台風21号の豪雨により甚大な被害を受け、迂回路のない区間が被災しました。この災害により、大台町大杉地区は、8日間に亘り孤立し、生活や復旧活動に多大な支障をきたしました。

■事業目的
 ①幅員狭小区間の解消、道路線形の改善による安全で円滑な交通の確保
 ②通行止め区間の解消、代替性をもった道路網の構築

■事業内容
 ・事業計画期間 22年間 (平成7年度～平成28年度)
 ・全体事業費 1,886百万円 (工事費: 1,820百万円、用地費: 66百万円)
 ・全体延長 L=850m (起点) 多気郡大台町滝谷～(終点) 多気郡大台町滝谷
 ・幅員 W=5.5 (7.0) m
 ・主要構造物 トンネル工 1本 L=317m、橋梁工 1橋 L=18m

1・事業の効果

1-1 費用対効果分析
 ◆費用便益分析結果

区分		前回 (基準年: H27)	今回評価時 (基準年: R3)	備考
費用	事業費	23.3 億円	30.8 億円	基準年の変更
	維持管理費	0.3 億円	0.4 億円	三重県の実績
	合計	23.6 億円	31.2 億円	
効果	走行時間短縮便益	23.3 億円	26.7 億円	災害等による通行止めの考慮 マニュアルの変更
	走行経費減少便益	1.6 億円	4.6 億円	災害等による通行止めの考慮 マニュアルの変更
	交通事故減少便益	0.1 億円	0.0 億円	マニュアルの変更
	合計	25.0 億円	31.3 億円	
費用便益分析結果 (B/C)		1.1	1.0	

※出典: 費用便益分析マニュアル (平成30年2月 国土交通省 道路局 都市局)

1-2 費用対効果の検証

◆走行時間短縮効果の検証
 当該事業箇所の開通により、町道へ迂回していた交通を、当該事業箇所を含む国道422号を通るルートに転換することができ、走行時間が約5分短縮しました。
 (開通前7分 → 開通後2分)、(距離: 開通前1.8km → 開通後1.5km)
 また、当該事業箇所の開通により、災害時の通行止めによる迂回が解消でき、新八知山トンネルより西側の杉地区の住民の主なルートである新八知山トンネル西側から大台町役場周辺までの走行時間が約91分短縮しました。
 (開通前(災害による通行止め時)119分 → 開通後28分)、(距離: 開通前84.9km → 開通後18.9km)

1-3 その他の効果

◆救急搬送時の安全性向上

紀勢地区広域消防組合奥伊勢消防署から、八知山拡幅の整備により、整備前の町道迂回時には右左折が必要な狭隘道路を走行していたが、整備後は直線で広い道路であるため、救急搬送時の運転者の精神的不安がかなり減少されました。大台町大杉谷地区までの所要時間も短縮し、救命率の向上に寄与しています。また、道路の線形が良くなったことで、搬送時の揺れも軽減されており、傷病者の負担軽減も図られていると感じていますとのご意見を頂いています。

◆バス運行ルートの利便性向上

町営バスの運行会社から、八知山拡幅の整備により、バスの運行ルートが町道迂回ルートから八知山拡幅の整備区間を利用するルートに変更となったことにより、滝谷小又というバス停を新設することができ、地元の方に喜ばれています。また、道路の幅員が広がったことで、安全性が向上しましたとのご意見を頂いています。

2・事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化

事業箇所周辺は、滝谷の川岸岩壁植物群落として県の天然記念物に指定されています。整備区間の大半をトンネル構造とすることで、大きく景観を変えることなく、現在の自然のままで美しい景観を残すことが出来ました。

また、事業箇所周辺では、クマタカやサシバといった環境省のレッドデータブックで絶滅危惧類に指定されている希少な猛禽類の生息が確認されていましたが、事業中及び事業完了時に調査を実施して、それらが継続して生息していることを確認しており、本事業がクマタカやサシバの生息環境へ影響を及ぼすことなく完了できたと考えられます。

3・事業を巡る社会経済情勢等の変化

平成18年3月に近畿自動車道紀勢線の大宮大台ICが開通しました。また、平成16年の災害で不通となっていた大杉谷の登山道が平成22年10月から一部開通し、平成26年4月には全線開通しました。さらに、平成28年3月に大台町全域がユネスコエコパークに認定されました。これらの情勢の変化に加え、本事業完了後、大台町大杉地区に立地している大杉林間キャンプ場の観光入込客数は年々増加しており、また、令和3年3月には、道の駅奥伊勢おおだいに隣接する形で、新たに宿泊施設が開業するなど、地域経済の活性化や、更なる観光客の増加が期待されます。

そのため、本事業区間の開通は、大杉地区の観光地へのアクセス向上、地域の観光産業の支援に寄与していると考えられます。

4・県民の意見

一般国道422号八知山拡幅周辺の大杉地区をはじめ、旧宮川村の3つの地区の住民へアンケートを配布するとともに、三重県内の道路利用者に対してWEBアンケートを実施しました。地域住民アンケートは、412通のご回答をいただきました。WEBアンケートにおいては、100名の方からご回答を得られました。地域住民アンケートでは約87%、WEBアンケートでは約55%が満足と回答をいただきました。

また、利便性向上・交通安全・救急活動等の視点から、関係機関へのヒアリングを実施しました。

開通後良くなったと感じること

【地域住民アンケート】

- ・車道が広くなり、対向車とのすれ違いがスムーズになった。
- ・道路が整備され、快適に走行できるようになった。
- ・新八知山トンネルの開通により、町道への迂回が不要となり走行時間が短縮した。
- ・新八知山トンネルが整備されたことで、落石や土砂崩れに対する不安がなくなった。

【道路利用者WEBアンケート】

- ・以前と比較してかなり走りやすくなり、安全性も向上した。
- ・新八知山トンネル開通前は車道が狭く、圧迫感がある箇所があったが、開通後はとても快適に感じた。

不満と感ずること・改善してほしいと感じること

【住民・WEBアンケート】

- ・新八知山トンネルの前後の道路では幅員の狭い箇所があるので、整備をしてほしい。
- ・トンネル内のカーブが少しきつく感じる。トンネルの線形は直線にしてほしかった。

関係機関の意見

- ・事業区間の開通により、搬送時間が約5分短縮し、救命率向上に繋がっています。また、道路の線形が良くなったことで搬送時の揺れも軽減されており、傷病者の負担軽減が図られている。(紀勢地区広域消防組合奥伊勢消防署)
- ・事業区間の開通により、バスの運行ルートが町道迂回ルートから八知山拡幅の整備区間を利用するルートに変更となり、滝谷小又というバス停を新設することができ、地元の方に喜ばれています。(町営バス運行会社)
- ・幅員が広く、きれいな道路になったことで、アユ釣り客にも安心して来てもらえるようになり、アユ釣り客の数も増えたと感じる。(宮川上流漁協協同組合)
- ・新八知山トンネルの整備は、大杉地区への観光客の安心・安全に寄与しています。雪が降る地域であるため、冬季の道路上の融雪作業がトンネルの整備により軽減されました。(大台町役場建設課)

5・再評価の経緯

平成27年度の再評価においては、事業継続の妥当性が認められたことから、事業継続を了承されています。

6・今後の課題等

- ①新八知山トンネル前後の道路では幅員の狭い箇所があるため、整備をしてほしい。
→事業区間前後の未整備区間の整備を進めています。
- ②トンネル内のカーブが少しきつく感じる。トンネルの線形は直線にしてほしかった。
→他事業でもトンネルを整備する際は、トンネルの線形に留意して整備を行っていきます。

※再評価実施事業は(下段前回)とし、前回再評価時の内容を記載する。未実施の場合は(下段当初)とし、当初計画時の内容を記載する。